

スローガン

突き詰めて 突き詰めて 突き抜けろ

～誇れる明日のために～

【～はじめに～】

2013年度の公益社団法人浦安青年会議所の活動は常に運動を意識し、自己満足で終わらない、自らの主観性や主体性を強く出した事業を展開して参りました。

その結果、浦安J.Cの事業・運動が外部から認められる事となりました。公益社団法人日本青年会議所関東地区千葉ブロック協議会主催、千葉ブロック版アワードグランプリ、そして公益社団法人日本青年会議所主催、アワードジャパン2013では浦安J.C創設以来初となる優秀賞、更に会頭特別賞を授賞。これらの栄えある賞は、今後の活動の誇りとなるでしょう。

【すべては利他の心から】

東日本大震災に於いて経験した利他の心の大切さを、多くの市民に知って頂き、利他の心を醸成する事を目的として、まずは私たち Jaycee が利他の心を学ぶべきと判断し、福島に赴き利他の心を実践している方々から東日本大震災時の事をお聞きしました。

そして、浦安市民に広く利他の心を広げるためには常に市民が利他の心について考える場が必要であると考え、浦安に住む人なら必ず使用する市指定ごみ袋に着目し、そのごみ袋に寄付金をのせて販売することを実現しました。ごみ袋を購入する際に浦安市民が寄付するかしないかを常に選択できるようにし、利他の心を醸成する機会を提供しました。

【一旦緩急あれば率先し行動できるリーダーの育成】

東日本大震災に於いて、文字通りリーダーであった当時の内閣総理大臣、菅直人氏を招き、当時の状況等を踏まえ、災害時に行動できるリーダーとは何かをご講演頂きました。また、理事長である私と対談して頂き、「情報量の少ない中でも決断しなくてはならない。決断しないことが一番やってはならない事である」と決断することの重要性を説いて頂きました。

【共創による新生浦安】

新生浦安に向けて私たち浦安JCが考える政策提言を1年間かけて作り上げました。その政策提言書は浦安市に提出しただけではなく、浦安市議会・浦安商工会議所・浦安市観光コンベンション協会等に対して説明会を行い、更に地域新聞で広く告知することにより私たちの考えを提示致しました。

また、浦安市民が浦安市の政策に対するアンケートを集め1, 232名の声を頂くことができました。この結果も政策提言書と合わせて浦安市、そして浦安市議会に提出致しました。

【一人ひとりに愛郷心を醸成】

愛郷心を醸成するために、浦安市と協働して「人と地域をつなぐ就業体験」を行いました。大学生を広く募り、浦安市内の企業に長期間通って頂くことによって、様々な浦安市民とふれあい、地域を知って頂き、浦安に愛着を持って頂くことを期待致しました。学生の参加者は58名と目標の100名には届きませんでした。参加企業31社と連携して就業体験を通して愛郷心の醸成を図りました。学生・企業共にお願いしたアンケート結果を通してその結果を考察しても愛郷心の醸成が図られたと考えています。しかし、このような事業は単発で終わらせることなく、繰り返し運動として事業化していかなくてはならないと考えており、2014年度も引き続きこの事業を行う事によって目的が成就される物と考えています。

【想いを共有する推進力ある組織】

入会間もない新人の経験の場として、青少年育成の一環として毎年開催している「わんぱく相撲浦安場所」の企画・運営を前年度入会そして本年度入会の新人の皆さんに託しました。結果、企画・運営に関しては例年には無い新しい試みがなされ、成功することができました。新人の皆さんは、この経験を通し今後のJC活動の糧になったと感じています。

そしてJC運動を通して「喜び」「悲しみ」「楽しさ」「悔しさ」等を共有し、それらが一つの「想い」となることを目的に、例会や交流事業そして諸会議を行ってきました。その為にはメンバー一人ひとりが顔を合わせる事が重要だと考え、例会出席率の向上を常に考えて1年間活動して参りましたが、年間の例会出席率も62%弱と向上することはできませんでした。この問題に対しては引き続き2014年度体制で検討して頂ければと思います。

【戦略的な広報と会員拡大】

戦略的な広報に関しましては、地域新聞である「市川よみうり新聞」に市川青年会議所と共同で広告を1年間12回に渡って掲載してきました。これはその時々活動を多くの方々にお知らせするために、そして浦安JCの知名度を上げるために行ってきました。ま

た、コミュニティー雑誌「うらやすに住みたい」にも年6回、こちらは主に新入会員獲得のために浦安J.Cのメンバーを紹介するような形で行ってきました。1年間を通して戦略的に広報を行った結果、様々な反響がありました。浦安J.Cの知名度も格段に上がったと考えています。

しかし、会員拡大に関しましては大いに反省しなくてはなりません。20名の会員拡大を目標にしていたにも関わらず、目標の数字には遠く及ばず、更に退会者を多く出す結果となりました。この点は素直に反省し、2014年度の躍進に期待致します。

【公益社団法人としての誇り】

1年を通して様々な事業を遂行して行くときに、公益社団法人格は私たちの活動の大きな武器であることを再度理解しました。そして公益性や財務・コンプライアンスといった公益社団法人であれば当然求められる事は諸会議を通してクリアにしていきました。この点は今後も十分注意し、確実に遂行していかなばなりません。

【突き詰めて 突き詰めて 突き抜ける】

2013年度の公益社団法人浦安青年会議所は、スローガンの通りすべての事に対し「突き詰めること」を大切にした1年でした。諸会議の運営、例会の計画・開催、他団体との交流等、すべて単に行うのでは無く、内容を精査し、大胆かつ繊細に活動を、そして運動を行いました。

「突き詰める」という事は、徹底的に考えるということです。何度も何度も事業等を見直すことにより、より良いものができあがります。そして最も重要なことである「突き抜ける」ということは挑戦することであり、青年世代だからこそ挑戦し続けなくてはなりません。

【誇れる明日のために】

2013年度を終えて、この浦安が誇れる社会に変わったでしょうか

実感は湧きません。変わったという話も聞きません。そのような数字もありません。

しかし、今日の浦安は2013年度を通し、2012年度以前の浦安よりも輝き、誇れる社会になっていると私は思います。

そして2013年度の浦安J.C理事長を終えるにあたり、この1年を総括し理解したことは、思いを込めて行動していれば、その思いは様々な人々に伝播するということです。公益社団法人浦安青年会議所が今後も思いを込めて素晴らしい運動を行うことによって、必ず変わったと実感できる、輝ける誇れる社会が待っているのだと確信しています。